

姉妹都市・アウクスブルクを訪ねて

水谷 友香理

9月13日から22日までの10日間、私は尼崎市青年使節団の一員としてドイツにある姉妹都市・アウクスブルク市を訪れた。この10日間は、毎日が本当に充実していた。そして、私にとって、とても貴重な経験となり、一日一日が大切な思い出となった。

アウクスブルク市

アウクスブルク市はとても美しい街で、数多くの歴史を感じる建物がある。街が静かで、趣深く、時間がゆっくり流れているように感じた。その中でも、市長表敬訪問時に訪れたアウクスブルク市の市庁舎は、歴史を感じる威厳のある建物であった。特に、黄金の間と呼ばれる部屋は本当に美しかった。



市庁舎・黄金の間

ホームステイ

今回が私にとって初めての海外、そして初めてのホームステイであったため、期待と同時に不安も抱いていた。しかし、その不安はホストファミリーに会うと、すぐに消えた。私を受け入れてくれた Sesar 一家

は、とても素敵な家族で、緊張していた私を温かく迎えてくれた。ドイツの定番料理を食べさせてもらったり、一緒にゲームをしたり、ドイツの民族衣装も着させてもらった。また、家族全員が英語を話すことができ、ホストシスターの Valerie は日本語も流暢に話すことに驚いた。

ホストファミリーとの一日では、ドイツとオーストリアの国境を歩いて超えるという、貴重な体験をさせてもらった。これは、島国である日本では考えられないことである。国境といっても、線があるわけでもなく、看板が立っているだけで、言われなければ国境を越えたと気付かないぐらいのものだった。



ドイツとオーストリアの国境に立っている看板

そして、今回のホームステイで大切なことを学んだ。会話の中で、意思疎通が上手くないこともあった。しかし、伝わらないからといって諦めるのではなく、最後まで自分の言葉で伝えようとするのが大切だ、ということである。ホストファミリーと過ごした時間は本当に楽しくて、かけ

がえのない宝物になった。

フェアウェルパーティー

全体での行程の最終日には、フェアウェルパーティーが行われた。これは、今回お世話になったアウクスブルク市の方々や、ホストファミリーの皆さんをお招きして感謝の気持ちを伝える、というものである。ホストファミリーの中には、ドイツの民族衣装で参加してくれた方もたくさんいた。私のホストファミリーである Valerie も民族衣装で参加してくれた。



フェアウェルパーティーの様子

私たちが企画していた書道体験も楽しんでもらえたように思う。そして、全てのプログラムが終わった後、尼崎・長浜市青年使節団と昨年のアウクスブルク市青年使節団の全員で『世界に一つだけの花』を歌った。この時、壇上から見たたくさんの笑顔が今も忘れられない。本当に素晴らしい光景だった。そして、それと同時に、別れの時が近づいていることを感じ、少しさみしくもあった。

フェアウェルパーティーでは、他のホストファミリーと話したり、たくさんの人と写真を撮ることができ、あっという間に時間が過ぎていった。

尼崎市青年使節団員として

今回、尼崎市青年使節団の一員としてアウクスブルク市を訪れ、普通の旅行ではで

きないような経験をたくさんさせてもらった。たった1週間という短い期間ではあったが、現地の人々と同じ生活をしながら、同じ時間を共有した。この経験は、私にとって、これから先の人生につながる貴重な経験となった。ホストファミリーを始めとする、今回お世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱい。そして、この感謝の気持ちを忘れず、これから先も尼崎市とアウクスブルク市の素晴らしい姉妹都市関係が続いていくように、さまざまな形で国際交流に参加していきたい。



フェアウェルパーティーにて Sesar 家の皆さんと



アウクスブルクの美しい街並み